

# 学びを変える

～1人1台端末のGIGAスクール構想をはじめ、教育改革の視点を中心として～

市では、学力・体力を主体とした認知能力とその基盤ともなる非認知能力を向上させ、自己肯定感を高めるためにこれまでの学びを変える試みが必要と考えています。自らの志を立て、育て、社会で生かすためには五つのアイテム「ICT」「情報」「心・体」「知識」「経験」を善く使えるようになることが大切であり、それらを高め、鍛える学び・教育活動を推進しています。その一部を紹介します。



吉川市特任教育支援員  
大西 久雄先生

不確実で予測困難な時代、AIが社会の在り方を変える時代においては、「人間の強み」である文章を正しく読み解く力や対話力、教科ごとの固有の見方、考え方を使って表現する力、対話や協働を通じ納得解や新たな価値を生み出す力がますます重要になってきます。

これらの力を身に付けるために大切にしなければならないのが「学び方」です。



## リーディングDXスクール

「すべての子どもたちが輝くために」。1人1台端末とクラウド環境を活用した効果的な教育実践の学校間格差解消に向けた文部科学省のプログラム。吉川市はコンセプトを「DXにより多様な価値観、他者・自分のWell-beingを学び、探る」と定め、東中学校区を推進校区として今年度事業を推進します。

### さまざまな場面でのICT活用

- ①「個別最適」「協働的」学びの一体化
- ②「動画」「外部人材」などによるonlineの学び
- ③TPOを問わない端末の「文具化」による学び
- ④「効果的」「対話的・協働的」な会議・研修
- ⑤学び等の成果の公開・発信による地域普及

### ターゲットキーワード

多様性

自己肯定感

デジタルを生かした表現力、発信力を子どもたちが身に付けられるように、旭・三輪野江小学校と協力して取り組んでいきます。



東中学校  
林 晴彦校長



## 小中一貫教育

市の教育大綱が求める「学力向上」「非認知能力の育成」を目指すため、各中学校区による9年間の学びと育ちの連続性を重視した教育の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実践します。また、中学校区ごとに毎年度全校に研究委嘱を行い、推進しています。



1人1台のタブレットの整備が、子どもたちの学びを大きく変えていきます。「協働的」で「個別最適化」された日々の学習がもたらすのは、「一人ひとりを大切にしたい学び。」多様性を認め、誰一人取り残さない学びへの変革です。

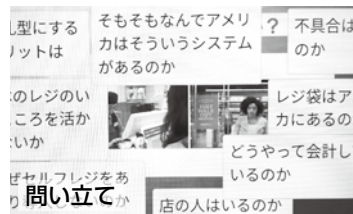


市教育委員会ICT推進担当  
松岡 伸悟指導主事



## PBL(探求的な学び)

PBLとは、児童生徒が自ら問題を見つけ課題化し、その課題を解決するまでの過程でさまざまな知識を得ていくという学習方法。これまでの一斉型、一問一答型の授業ではなく、一人ひとりを大切にしたい「個別最適化された授業」を実現します。総合的な学習の時間を中心に進めていきます。



授業を通して子どもたちは、学びがより自分で問いを持って、主体となって進めるものだと感じたようです。我々教師も今後更なる授業改善を図り、子どもの「想い」や「問い」を大切に、子どもの気持ちに寄り添った学びを進められるようになっていかなければならないと感じました。



関小学校  
岡部 諭先生